

2021年度 外国人留学生選抜 「専門試験」「小論文」等の狙い・意図・採点のポイント

学科・専攻	専門試験（芸術学科は小論文）		面接		
	狙い・意図		狙い・意図		
日本画	昨年からコロナによって大きく社会状況が変わり特別な年になった。多摩美の日本画生としてデッサン力はもちろんの事、社会を見つめる重要な意味を持つ時代になっている。また絵が描けるという事以上に芸術家として何を感じるか、の試験でもある。題名を含め内容も判断材料とした。		題名そして内容を自身で説明してもらい、その考えを判断材料として加味した。（明解に説明できたかどうか）		●
油画	対象の観察力やデッサン力、画材の扱い、構力などの基礎的な力量を見極める。加えて、空間に配置されたモチーフを手掛かりにもの捉え方、又は主題となる「花」から各々の発想力や独創性を問うた。		実技試験について「花」をどのように表現したか。提出作品の意図や日本語によるコミュニケーション能力などから総合的に判断した。		●
版画	<p>専門試験では大学4年間の学びの基礎的な造形表現力を評価する出題とした。その評価のポイントは次の項目が挙げられる。</p> <p>■選択A デッサン「静物」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解力 出題内容をしっかりと理解しているか ・観察力 モチーフの造形性を理解し、正しく捉えているか ・描写力 形、色、立体、空間、質感、細部などを描写する力があるか ・構力 モチーフを適切に配置し、バランス良く構成しているか ・テーマ力 作者がモチーフの何に興味をもち、どのようなテーマをもって取り組んだか <p>モチーフを組み合わせた基本的な構力、モチーフの形やディテールを写し取る描画力を採点対象としている。</p> <p>■選択B コラージュ「写真」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想像力 写真イメージに対してどのようにアプローチしているか。 ・編集力 写真を選択し、組み合わせ、編集する力があるか ・構力 作品のテーマ、コンセプトを構想する力があるか ・独創性 独自の視点、感覚をもっているか ・完成度 コラージュとしての完成度があるか <p>写真を選択する感覚や、選択された写真から発想する力、それらの写真を編集する力、そして画面に構成する力などを採点対象としている。</p>		<p>■面接時の質問事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 来日の理由 2) 持参作品のプレゼンテーション <p>■面接員とのやり取りに際しての評価ポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 面接員の質問を理解して、適切に回答できる 2) 自分のアピールポイントを分かりやすく話すことができる 3) 持参作品のプレゼンテーションを分かりやすく行うことができる 		●
彫刻	デッサンなど技術的修練が必要とされるものと、その場で発想力、両方をバランスよく見る意図で出している。新聞を選んでいるのは、選択肢になるべく広い幅を持たせるため。社会問題に遠く関心を持つ者、ひとつのワードから自由自在に想像力を膨らませる者、ストーリーを構築する者、複数の観点から総合的に評価をする。学生が「現在持っている力」も見るが、「入学後にどれだけ伸びるか?」=自己の関心をいかに広く社会と接続していけるか?が一層の評価基準になる。		<ul style="list-style-type: none"> ・デッサン（実技試験）作品コンセプトの聞き取り ・基本的な言語/コミュニケーション能力 ・美術以外に関心のあること 		●
工芸	形態、素材感、色彩感、立体感、空間的な配置、画面構成などの基礎的な描写力を確認する。また、鉛筆デッサンといえども、対象に向き合う際の感覚が伝わってくるような画面の雰囲気や表現力も期待する。		なぜ本学の工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか、将来の展望等について熱意と説得力のある答えを望む。同時に、実技試験を経た感想を話してもらうことで、本人の制作についての考え方や取り組み方を再認識したい。また、面接の受け答えと小論文において、本学の学業を達成するために必要な日本語の能力を確認する。		●
グラフィックデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の意図や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動き、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本語で日常会話が行えるか ・専門分野の用語が理解できるか ・入学理由が明確であるか ・自分の意見が述べられるか 		×
プロダクトデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 問題の把握、理解が適切か ・発想力 アイデアが優れているか ・独創性 他にないアイデアか ・実現力 アイデア具現化方法の知識があるか ・表現力 アイデアが伝わる表現か 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業に必要な対話力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図が明確か ・自分の意見を述べられるか ・学業意欲が感じられるか 		×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶため、次に述べる力が本人に備わっているかどうかを確認した。出題内容は、想像上の花と玩具として販売されるブロックをモチーフとした。花は想像上の花であればよく、またブロックは白いモチーフであったが、表現には色彩を使用するように指示されている。この作業をもとに「空想力」が今回の試験のキーワードとなっている。描写力では、構図、形態、質感などを描写する技術が優れているか。基礎的観察力では、対象に向き合い細部まで丁寧に観察しているか。色彩表現力では、モチーフの観察から想像した色で、優れた配色がなされる表現できているか。デッサンや色彩表現では、観察力と独創的且つ調和的な構成が美しくいかに描かれているかを確認できるようにした。また、日本語による理解力を高めるために、設問の意図を正しく理解して答えているかどうか採点のポイントとした。		授業についていくことができる日本語によるコミュニケーション能力があるかどうかを見極めることを目的におこなった。近年は、災害を含めた生活環境の変化が激しい社会背景のなかで学生生活を楽しくてならないため、専門用語が必要な美術における説明を求めているだけでなく日常の生活力を見極めるための広い範囲の語彙を問った。		●
環境デザイン	環境デザインを学ぶ上で最低限必要な基礎的造形力、および基礎的デッサン力があるか。形、空間を把握し、平面上に表現する能力があるか。		本学部の授業を理解できるだけの日本語会話力があるか。日本で、また多摩美術大学で学びたい理由がはっきりしているか。本学部で環境デザインを学ぶ意欲、目的意識がはっきりしているか。		×
情報デザイン メディア芸術コース	"手"と"三角定規"の対比(自然と人工)をどのように表現しているかがポイント。構図の斬新さ、それ以外のマテリアルをちゃんと書き分けられているかが重要。これらの点が先ずは評価の対象となる。細かい点では、モチーフとして配置した三角定規の大きさや向きと描いているか?三角定規のバース感をきちんと描いているか?などが挙げられる。		何故メディア芸術コースを選択したか?入学意図に充分対応できているか?など、明確な自分の意思を持っていて、それを言語化し尚且つ論議出来るかという点がポイントとなる。		●
情報デザイン 情報デザインコース	情報という目に見えないものをデザインの対象とし、それにかたちを与えていくためには、まずそれを観察することが必要。そのため、情報デザインコースの鉛筆デッサンは観察して描く観察デッサンとしている。A4用紙という身近なものをモチーフとして、いかに記憶に頼らず(定型化せず)、観察し描写できるか。見慣れたものを再度観察して描くという設問。		<ul style="list-style-type: none"> ・自己アピールなどプレゼンテーション力があるか ・日本語でのコミュニケーション能力があるか ・プレゼンテーションにおいて、作品の制作の意図・過程・結果・価値を説明できるか ・入学後の具体的な学習・研究イメージがあるか ・情報デザインの分野の専門性を理解しているか 		×
芸術	日本語の習熟度だけでなく、思考力を見る。論述の着眼点が出題内容に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、という点も判断基準となる。常識的にまとめた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待している。		外国人留学生の存在は他の学生にとっても大きな刺激になる。面接試験では、直接本人と会って日本語能力が適切であるか、芸術に関する最低限の基礎知識をもっているか、などを判断する。		×
統合デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・観察力 日常の気付きからアイデアを導きだしているか ・発想力 イメージを具体化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、光、質感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 事象を捉える感覚とその表現が適正で感性に優れているか 		<ul style="list-style-type: none"> ・入学理由が明確であるか ・専攻科の内容を理解しているか ・授業に必要な対話力・語学力はあるか ・授業への取り組みの意欲があるか 		×
演劇舞踊デザイン 演劇舞踊コース	<p>■舞踊</p> <p>パフォーマンス形式で受験生の身体と動きを見た。（歩き、ジョギング、ジャンプなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ずつ、音楽と共に即興的に身体を動かす自由課題を出した。 ・身体を動かしながら日本語の口頭での指示を聞き取れているか、また指示を基にして何らかの実践することができるかを注視した。聞こえてきた言葉に対し、身体を通してどのような感受性を持ちうるのか、実践しているのを見た。 <p>■演劇</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体表現 自身の身体で「かゆみ」を個人と2人1組で表現。 言語を使用しない身体での演技表現を見る。 2) 創作協同 「かゆみ」をモチーフに2人1組で相談し創作、1分ほどの作品を発表。 限られた時間でのコミュニケーション能力と表現力を見る。 3) テキストの台詞を誘む。 日本語の発話能力、言語的な表現能力と感性、表現の幅を見た。 		主に自身の園を離れて日本に来て学ぶ動機と、大学の中でも多摩美を目指す意志を尋ねた。志望動機と実技試験の感想について尋ねた。他、基礎過程の2年間に演劇と舞踊の両方を学ぶことに耐性があるかどうか、必修科目の中に日本語で実施される講義科目があることを承知しているかを確認した。		×
演劇舞踊デザイン 舞踊美術デザインコース	単に置かれたモチーフを観察し正確にデッサンするだけではない。基礎的なデッサン力と共に、自身の発想や構図で、独創性や構力を見ることが求められる。情景を想定するということは、モチーフから物語を創造してドラマチックな世界観を演出することもある。今回は、ビジュアルを想像させるモチーフが出題されている。そこから発想した表現を期待していた。しかし、イメージネーションを掻き立てる回答が少なく残念だった。採点者を感動させるような表現を期待している。近年、大膽な構図や独自の発想が増加している。しかし素材感を表現できていないもの、雑な描き方の回答は評価が低くなる。光の捉え方（陰影の表現）は重要なポイントとなる。		面接試験では持参した作品の説明に重点をおいている。作品は、デッサンや色彩構成などのベーシックなものから、個人作品として制作したもので幅広いラインナップが望ましい。作品説明において、明快なコンセプトとそれを表現するための表現を的確に説明出来るかを評価の基準としている。また、決められた時間内に説明ができることも重要な要素である。説明や質疑応答時に、日本語でスムーズに会話が出来ると、意思疎通が可能な語学力を有しているかも判断する。この学科への志望動機や目指したい方向性が明確かなども重要である。		●

全学科共通小論文

出題 「環境と芸術」について、あなたの考えを述べなさい。（800字程度）

- 1) 今日、アート、デザインを問わず、創作・創造・ものづくりを続ける以上、環境への配慮は切っても切り離せない問題である。環境を損なわない工夫とは何か、環境保護のために創作・創造・ものづくりはどういう姿であるべきか。自身に寄せてこのことをどのように捉えているか。
- 2) また、都市環境、自然環境など、自身を取り巻く影響と自身の創作・創造・ものづくりをどう捉えようとしているか。
- 3) SNSやYouTube、メディアなどを環境と捉え、どのように活用するの、逆に、創作のためにそうしたものからどのように距離を置き、自身を見つめ直すとしているのか、こういうことも解答の対象となる。
- 4) 複数の顔、意味合いを持つ「環境」という言葉を、真摯に解釈し、論じてほしい。
- 5) 正しい日本語によって書かれているか。また意味内容が明確であり、かつ強い意欲が感じられるかという点についても合わせて考慮した。